2012年11月1日　ア　ク　セ　ス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第430号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体143円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

成長するアジア最大の都市バンコクをまるごと1冊に。

逆境下だから打破できたバンコクスマートページ®成功秘話

文・発行人　西岡 良樹

タイの首都バンコク。東南アジア屈指の国際都市に、1冊の日本人向け生活便利帳＆業種別電話帳がある。その名も、「バンコクスマートページ」。多くの日系企業が進出し、一説には10万人を超えるともいわれる日本人が住むこの地で、この媒体は人々の生活を、そして日系企業のビジネスをサポートするツールとして広く活用されている。

駐在員、在タイ日本人の心強い生活便利帳。それがバンコクスマートページ！

バンコクスマートページは、2007年、同じく弊社が発行する日本人向け週刊フリーペーパー「WEEKLY WiSE」（25,000部／週）から「バンコクウェルカムガイド」として世に送り出された。翌2008年には内容を拡充し別冊化、さらに2009年には業種別の電話帳を追加……。そして、最新号である2012年版からは、タイ国内の工業団地内Mapと入企業一覧を掲載した「工業団地特集」も新たに掲載。「他紙では得られない詳しい情報が掲載されている」と多くのお褒めの言葉をいただいている。バンコクスマートページの特徴は次の点だ。

1. 日系企業（6,200社強）に郵送、日本人が多く立ち寄る場所に設置
2. タイを「タイ概要」「食事」「医療」「生活」など13カテゴリに分けて完全網羅
3. 業種別の電話帳は8,000件以上を掲載
4. 毎年内容・情報のアップデートを実施

フリーペーパー激戦地、バンコク。日本人向け週刊紙「WEEKLY WiSE」創刊。

フリーペーパービジネスは、アメリカのサンフランシスコに端を発する。以前、アメリカに住んでいた私は、膨大な情報を掲載した電話帳が無料で入手できることに驚き、いつか自分も手掛けたいと思い始めた。そんな折、WEEKLY WiSEの前身である「ベイスポ」のタイ進出の話しがもたらされた。私はタイに移住し「ベイスポバンコク」を創刊（2003年）。さらに2006年の全面リニューアルを機に「WEEKLY WiSE」へと名称変更した。

現在、バンコクには16紙を越えるフリーペーパーが存在している。創刊当時も既に8紙が存在していたが、その多くが月刊紙だった。我々は週刊にこだわった。インターネットもそれほど普及していなかった当時、日本で起きた出来事や在タイ日本人向けの飲食店情報を集めた媒体は多くの支持を集め、現在では、

- 日系大手企業広告出稿数
- 月刊発行部数
- ページ数
- 広告出稿クライアント数

の分野でNo.1フリーペーパーの地を確立するまでになった。

金融危機、政変、洪水……。逆境こそを新たなビジネスチャンスに！

しかし、すべてが順調だったわけではない。洪水にクーデター、タクシン元首相の亡命、赤シャツ隊デモと軍による鎮圧……と、この国は度々予期せぬ出来事が起こり、その都度、多くの日系企業と日本人は影響を受けてきた。そのなかでも、我々にとって一番深刻だったのがリーマンショックだ。

だが、この局面を打開したのがバンコクスマートページであり、一丸となって編集・制作に当たった従業員だった。

厳しい経済状態のなか、WEEKLY WiSEだけで戦うには大きなリスクがあった。これを補完する新しい媒体の確立が急務だった。当時、既にバンコクスマートページは世に出ていたが私の中には大きな葛藤があった。スマートページの発行には、情報の収集にアップデート、業種別電話帳に掲載する企業の住所・電話番号の確認……といった膨大な編集・制作作業を要する。これを週刊発行のWEEKLY WiSEの作業と並行して行わねばならなかった。しかも萎縮してしまっているマーケットに対しての営業も苦戦をしいられることは目に見えていた。

「乗り越えられるだろうか……」。

実際、連日深夜にまでおよぶ作業が続いた。しかし、こうした状況にありなが

ら従業員からは1つの不平不満も出ず、皆一丸となって作業に当たってくれた。これもリーマンショックが生んだ危機感を打破しようと必死になって取り組んだからであり、従業員たちの「何かしなければ！」という思いが結実した結果だろう。こうして、我々はリーマンショックを乗り越え2010年版（674ページ）の発行にこぎ着けた。この出来事がスマートページにおけるターニングポイントといっても過言ではない。

バンコクの成長、日本からのさらなる進出。スマートページをアジアと日本の架け橋に！

東南アジア、タイ、日本を取り巻く環境は大きく変化している。今後、より多くの企業や日本人が東南アジアやその中心であるタイに進出していくだろう。そうしたなか、バンコクスマートページが注目されはじめた。タイの現地法人から「日本の本社に送りたい」という声や直接日本から「日本で入手できる場所はないか」という問い合せも増えている。確かにこうしたニーズがあるのも当然だ。

住み馴れない海外（タイ、バンコク）での生活を想像してみてほしい。「住まいの準備」や「病気になったら？」「子どもの学校は？」「交通機関はどう利用する？」「携帯電話やインターネット環境は？」……多くの疑問や不安が頭をよぎるはず。これからタイ・バンコクに来る人にとって現地の生活に必要な情報が網羅され、毎年最新の情報として提供されているバンコクスマートページこそ、最も必要とされる情報だからだ。

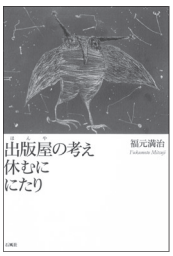
2012年、我々はスマートページの日本販売を開始。今後はより多くの日本の方にスマートページを手にとっていただける環境を作っていく。そして、さらにスマートページを便利で使い勝手のよい媒体に成長させていく。新たなコンテンツの追加はもちろん、現在公開しているスマートページ（Web版）の強化、電子書籍・アプリ化なども計画中だ。私はスマートページが日本とタイの情報の“架け橋”としての役割を担っていくと確信している。

（にしおか よしき／ RyDEEN Co., Ltd. 代表）

新刊ダイジェスト

※価格は総額（税込）表示です。

『出版屋の考え休むににたり』●福元満治著



福岡の出版社・石風社の社主が、日々の出来事や思う事などを書きとめ、まとめたものである。圧巻は「石牟礼道子ノート」の章だろう。水俣病運動を通じて石牟礼氏や渡辺京二氏と面識のある著者にして書き得た、その内面を照らす好エッセイだ。戦後日本文学最高の収穫と言う人もいる石牟礼道子『苦海浄土』の作品世界へ入ろうとする読者へのプレゼントだ。本書のもう一つの山は「なぜかアフガニスタン」だろう。アフガンの地で医療、井戸掘り、そして灌漑用水路25キロを開削して3000ヘクタールに及ぶ緑の沃野を甦らせたNGOペシャワール会（代表中村哲医師）の活動を知れば、真に有効な海外援助とはどういうものかが分かるというものだ。著者はこの会の事務局長でもある。

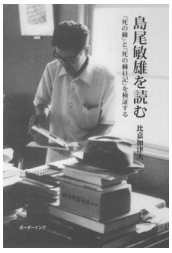
◆1890円・四六判・284頁・**石風社**・福岡・2012/7刊・978-4-88344-215-7

『先生も生徒も驚く日本の「伝統・文化」再発見』●松藤　司著

日本の伝統文化について聞かれて、答えに窮してしまったことはありませんか。例えば日本人はいつから正座するようになったの？　寺子屋では子供たちはどんな風に勉強していたの？　といったことは、学校で習ったような気がするけど、あんまり細かいことは教わらなかったような…。この本は住居・言語・食・自然との関わり・江戸文化などの話題ごとに、私たちが普段は見過ごしがちな部分を易しく解説してくれます。本の構成は教員向けの授業のネタ帳という趣がありますが、解説は決して子供向けではなく、一般の方も興味深く読めるはず。知っていると思っていたことでも、意外な再発見があるかもしれませんよ。

◆2100円・A5判・166頁・**学芸みらい社**・東京・2012/8刊・978-4-905374-10-7

『島尾敏雄を読む　－「死の棘」と「死の棘日記」を検証する』●比嘉加津夫著



夫の不倫がもとで妻が神経に異常をきたし、夫婦は壮絶な「日常の中の戦争」を繰り広げていく。愛とは夫婦とは家族とは何かを読み手に迫る島尾敏雄の「死の棘」。彼の小説の手法は小説の前段に日記や細かい記録のメモ類が手元にあることで、「死の棘」についても没後に日記が出版された。著者はまず夫婦と愛人から小説を読み解き、さらに新たな視点で日記を検証していく。長男伸三氏の著作も引用し、子どもの思いをも絡め、夫婦の問題を越えて子どもの精神上にまで描写の目を向けたところが群を抜いていると論じている。暗いのにもかかわらず、ほのかにユーモアも漂うこの小説の今後の読まれ方が楽しみである。

◆2310円・四六判・222頁・**ボーダーインク**・沖縄・2012/7刊・978-4-89982-226-4

『幕末の魁、維新の殿　－徳川斉昭の攘夷』●小野寺龍太著

明治維新の実現に最も功績があったのは西郷、大久保、木戸の三傑、あるいは逆説的に井伊などではなく、誰あろう水戸藩主徳川斉昭であり、光圀以来の尊皇攘夷の気風によるとの立場から、藤田幽谷の水戸学が醸成された歴史的風土と、尊皇攘夷運動の理想に殉じた人々の思想と行動に光を当てる。一方、これに反対の立場や、老中安藤正信、長州藩士長井雅樂といったこれまで余り語られることのなかった人物にも目を配る。維新の立役者たる水戸藩が、明治政府の中で地位を得られなかったのは、藩内の激烈な内部抗争故であった。書名はこの光と影を表している。薩長を中心とした従来の維新史研究に一石を投じたものといえよう。

◆2520円・A5判・294頁・**弦書房**・福岡・2012/8刊・978-4-86329-078-5

『ことでん　仏生山工場』●GABOMI著

香川県を走る私鉄、高松琴平電気鉄道。通称「ことでん」。地方私鉄の例に漏れず経営は厳しく、2001年には経営破綻も経験しました。そんな「ことでん」も昨年で開業100年。この写真集はその記念として生まれました。その舞台は仏生山(ぶっしょうざん)工場、車両の点検・整備などを行う場所です。そして主役はそこで働く人々や道具たち。普段は表に出てこない彼らの仕事が、日々の安全運行を支えているのです。年季の入った工具や後輩に技術を伝えるベテランの姿などからは、鉄道マンの誇りが伝わってきます。困難を乗り越え沿線の人たちと新たな100年へと歩みだした、「ことでん」の想いがつまった一冊です。

◆2625円・297mm×210mm判・112頁・**赤々舎**・東京・2012/7刊・978-4-903545-82-0

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2012年9月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は
所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は総額（税込）表示です。

【雑誌】

◆**faura**　37　ナチュラリー編　A4　80頁　1000円　ナチュラリー［北海道］978-4-503-19602-6　12/09

◆**ゆきのまち通信**　142　企画集団ぷりずむ編　A5　50頁　500円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-19600-2　12/09

◆**グラフぐんま**　548　上毛新聞社編　335mm×255mm　38頁　351円　上毛新聞社［群馬］978-4-88058-190-3　12/09

◆**榛名団**　4号　富沢　智編　A5　92頁　601円　榛名まほろば出版［群馬］978-4-503-19608-8　12/09

◆**GREEN REPORT**　393　廣瀬　仁編　A4　192頁　2800円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-25-1　12/09

◆**かまくら春秋**　No.510　田村　朗編　B6　92頁　290円　かまくら春秋社［神奈川］978-4-7740-0571-3　12/10

◆**仏事**　No.144　清水　祐孝編　A4　96頁　1575円　鎌倉新書［東京］978-4-503-19596-8　12/09

◆**月刊日本**　No.186　坪内　隆彦編　A5　144頁　650円　K&Kプレス［東京］978-4-503-19606-4　12/09

◆**多摩ら・び**　No.75　けやき出版編　A4　70頁　500円　けやき出版［東京］978-4-87751-475-4　12/08

◆**茶道の研究**　No.682　三徳庵編　A5　84頁　525円　三徳庵［東京］978-4-503-19593-7　12/09

◆**シネ・フロント**　No.383　浜田　佳代子編　B5　83頁　735円　シネ・フロント社［東京］978-4-503-19591-3　12/08

◆**Sports−Car Racing**　Vol.20　鈴木　英紀編　A4　112頁　2310円　Sports−Car Racing Group［東京］978-4-925254-15-1　12/10

◆**東京かわら版**　No.467　佐藤　友美編　204mm×108mm　134頁　420円　東京かわら版［東京］978-4-503-19609-5　12/09

◆**俳句四季**　No.422　松尾　正光編　B5　160頁　880円　東京四季出版［東京］978-4-503-19604-0　12/09

◆**みんなの図書館**　No.426　図書館問題研究会編　A5　80頁　735円　図書館問題研究会［東京］978-4-503-19601-9　12/09

◆**パズル通信ニコリ**　Vol.140　ニコリ編　247mm×148mm　138頁　882円　ニコリ［東京］

売行良好書

期間：2012年9月16日～10月15日

［出荷センター扱い］※税込み価格

(1)『樹滴』2100円・深夜叢書社　(2)『うれしいさん　かなしいさん』1050円・東京子ども図書館　(3)『酒とつまみチャンポン』1470円・酒とつまみ社　(4)『パターン認識と機械学習の学習』1050円・暗黒通信団　(5)『戦争していた国のおらが里』3990円・桂書房　(6)『現代社会はどこに向かうか』683円・弦書房　(7)『未来ちゃん』2100円・ナナロク社　(8)『本土の人間は知らないが、沖縄の人はみんな知っていること』1365円・書籍情報社　(9)『赤いおおかみ』2415円・古今社　(10)『木の実の恐竜たち』1575円・トンボ出版　(11)『作っておくと、便利なおかず』1260円・ベターホーム出版局　(12)『全訳　遠野物語』1680円・無明舎出版　(13)『ファミコンの思い出』1365円・ナナロク社

［三省堂書店神保町本店４Ｆ―センター扱い図書］※税込み価格

(1)『東京かわら版　１０月号』420円・東京かわら版　(2)『酒とつまみチャンポン』1470円・酒とつまみ社　(3)『三重の山城ベスト５０を歩く』2100円・サンライズ出版　(4)『平将門　武射・山辺風土記』1575円・崙書房　(5)『昭和プロレスマガジン　２７』1000円・昭和プロレス研究室　(6)『円周率１００万桁表』330円・暗黒通信団　(7)『現代社会はどこに向かうか』683円・弦書房　(8)『新訂　先祖の話』1890円・石文社　(9)『夢野久作と杉山一族』2940円・暗黒通信団　(10)『物物』2940円・ＢＯＯＫ　ＰＥＡＫ

［ジュンク堂書店池袋店地方出版社の本―センター扱い図書］※税込価格

(1)『東アジアとは何か』683円・弦書房　(2)『呪縛の行方』1600円・琉球新報社　(3)『よみがえれ海岸林』1050円・秋田文化出版　(4)『ルポ・発達障害　あなたの隣に』1050円・下野新聞社　(5)『日本の屋根　長野県の鉱山と鉱石』1500円・信毎書籍出版センター　(6)『医者は現場でどう考えるか』2940円・石風社　(7)『尖閣諸島』1470円・榕樹書林　(8)『バッタ・コオロギ・キリギリス生態図鑑』2730円・北海道大学出版会　(9)『三重の山城ベスト５０を歩く』2100円・サンライズ出版　(10)『千葉の森カフェ』1470円・書肆侃侃房

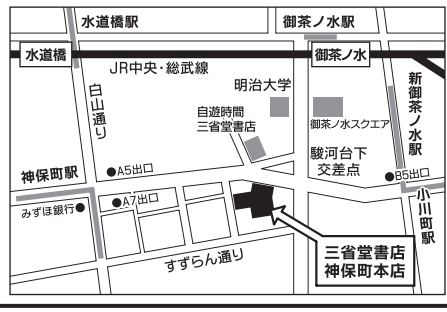
以下ホームページでも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
本と出版流通のページ：http://neil.chips.jp/

トピックス ―― ★★★

▼『寒冷前線』(深夜叢書社刊1895円)や『七耀』(同2940円)といった句集がある**吉本和子さんが、10月9日、老衰のため85歳でなくなりました。**ご主人である吉本隆明さんが今年の3月に亡くなったばかりでした。謹んでご冥福をお祈りいたします。／吉本和子さんが句作を始めたのは70歳を過ぎてからとのことですが、処女句集となった『寒冷前線』の「あとがき」には、後に有名になった一節があります。訃報を聞いてこの一節が思い出されました。「結婚して間もなく夫から『もし、あなたが表現者を志しているのだったら、別れたほうがいいと思う』と云われた。理由は、一つ家に二人の表現者がいては、家庭が上手く行く筈がないという事であった。吃驚したけれど夫は既に、二冊の本を自費出版していたし、ちょっと辛どい恋の後でもあったので、友人とも相談して『ま、子育ても表現のうちか』と納得することにした。」／また、これに続いて句作をはじめたきっかけについて「爾来40年、子供たちもそれぞれの道を為し、長年携わってきた雑誌の仕事も終わりの予感で、少し心が空しくなりかけていた時、齋藤愼爾さん、宗田安正さんに『秋桜』への参加を勧めていただいた。」と書いています。／現在どちらの句集も品切中のようです。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。
★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店
BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない
神保町本店 4階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。